

# 大学生の英語ライティング活動に おけるデジタルツール活用の 実態と意識の変化

加藤 由美子（ベネッセ教育総合研究所）  
津久井 貴之（群馬大学）  
細井 夏木（ベネッセ教育総合研究所）  
高木 亜希子（青山学院大学）

# 発表内容

- 研究背景
- 課題認識
- 先行研究

## ●研究の全体像と本研究の段階

- 研究目的
- 研究課題
- 指導内容
- 調査方法

## ●分析対象① 質問・分析方法・結果

## ●分析対象② 質問・分析方法・結果

## ●考察

## ●教育的示唆

## ●課題

## ●引用・参考文献

- 研究背景
- 課題認識
- 先行研究

# 研究背景

中学・高校の英語教員の意識の実態 「デジタル技術の活用・指導について」

「生徒は英語の家庭学習(宿題など含む)の中で**機械翻訳を使っていると思う**」 9割

「生成AI(ChatGPTなど)や**機械翻訳の適切な使用方法**を英語の授業で**指導した方がよい**」 7割

「今後、翻訳通訳を含めてデジタル技術の発展により**英語教員の役割や指導内容は変化する**」 8割

「英語学習に生成AI(ChatGPTなど)や**機械翻訳は使用すべきではない**」 4割

出典：ベネッセ教育総合研究所「小中高校の学習指導に関する調査2023ダイジェスト版」  
<https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=5927>

**機械翻訳などのツールをどのように使うと、  
英語力向上や英語学習意欲の向上に資するか  
教育現場での活用ガイドラインのようなものを作っていけないだろうか**

## 学習者の現状

翻訳・添削・生成AIが学生・生徒たちの日常に入り込んでいる

## 学習者の意識

使うことへの「罪悪感」や「うしろめたさ」があるのではないか

## 実践者の意識

活用法の積極的な周知や指導はできているのだろうか

# 先行研究1 機械翻訳活用がライティング指導に与える影響

機械翻訳を利用した英文ライティング指導は  
ライティングスコアに肯定的な影響が  
あるのではないかと推測できる  
(森・ジョンストン・佐竹, 2016)

機械翻訳が学生のライティングストラテジーに  
ポジティブな影響を与える  
Lee (2020)

上級レベルを指導するインストラクターの中には、  
ライティングスキルの向上に  
機械翻訳を活用するものもいる  
Clifford, Merschel, & Munné. (2013)

# 先行研究2 機械翻訳を活用した適切な指導の重要性

授業で機械翻訳を活用する時は、  
学習者のレベルをよく考慮する必要がある  
Xu (2022)

EFLの教師は、機械翻訳機能を十分に理解し、  
さまざまな教育目的で使用するために  
適切な指導モデルを開発することが重要である  
Tsai (2022)

- 研究の全体像と本研究の段階
- 研究目的
- 研究課題
- 指導内容
- 調査方法

# 研究の全体像と本研究の段階

前期事例研究

後期事例研究

大学生  
対象

デジタルツールの  
自由活用  
実践を通じた  
使用実態と  
意識の変化の  
把握

大学生  
対象

デジタルツールを  
活用した  
介入モデル指導  
(DeepL/DeepLWrite)

本研究

大学生に英語ライティング指導を行い、

学習者のデジタルツール使用の**実態と意識の変化**を  
把握し、ツール使用の**利点と課題**を明らかにする

(探索的事例研究)

大学生が英語ライティング学習において  
デジタルツールを使用した結果、

ツール使用に関する意識、英語学習行動や意欲は  
どのように変化するか

# 指導内容

## ●対象

群馬大学共同教育学部英語専攻及び副専攻(2年生)21名  
英語レベルはCEFRレベル A1～B1(前期初めのGTEC Academic結果)

\*対象学生には、プライバシーおよび個人情報の厳重な保護に加えて、研究のための調査データは  
該当科目の成績に無関係であることなど、研究参加に係る配慮事項について十分に説明し、研究参加の承諾を得た。

## ●指導内容

ライティング力向上を目的としたタスク(週1回授業内の15分を活用)  
どんなデジタルツールやAIを使用しても可とする

\*15分の流れ

- ①ニュースの視聴(使用教材 CNN English Express(朝日出版社))
- ②ニュースごとに設定されたタスク目標に合わせたライティング  
1タスクでライティングとリライトの2回ライティングを行う(4ニュース計8回のライティング)

# 調査方法

## ●アンケート調査

### 分析対象

①

【1】デジタルツール使用に関する意識や考えの変化(授業実施の前後)  
「デジタルツールの利点や課題、使う目的や自分の体験など」(自由記述型)

【2】デジタルツール活用実態(授業実施前)

【3】授業でのデジタルツール活用(毎授業実施後)

### 分析対象

②

【4】デジタルツール使用に関する意識や考え(授業実施後)

「自分の英語力が伸びたと思うか」(評定型)

「英語力が伸びたと思う人が伸びたと思う点と理由」(自由記述型)

「英語力が伸びたと思う人のデジタルツールの使い方の工夫」(自由記述型)

「英語力が伸びたと思わない人が伸びたと思わない理由」(自由記述型)

## ●GTEC Academic実施

## ●Writing課題

プレ23年4月、ポスト23年7月実施

# 分析対象①

- 質問
- 分析方法
- 結果

# 分析対象①の質問

機械翻訳や添削機能を使うことについて、  
あなたはどのように思いますか。

利点や課題など、使う目的や自分の体験なども  
踏まえて具体的に教えてください。

(プレ・ポスト調査：自由記述型)

# 分析対象①の分析方法

担当者2名でテーマ分析を実施

【1】テキストの切片化(担当者1)と協議(担当者1, 2)

【2】コードの付与(担当者1, 2)

【3】全体のコードの確認、協議、修正(担当者1, 2)

【4】カテゴリーとサブカテゴリーの作成(担当者1)と確認(担当者2)

【5】協議(担当者1, 2)によるカテゴリー・サブカテゴリー名の修正とコード振り分け

参考文献

Braun& Clarke (2006)

# 分析対象①の結果：基本情報1

項目	値
カテゴリー数	4
サブカテゴリー数	14
コード数	36
総切片数	221 プレ:106 ポスト:115
1コードあたりの平均切片数	6.1

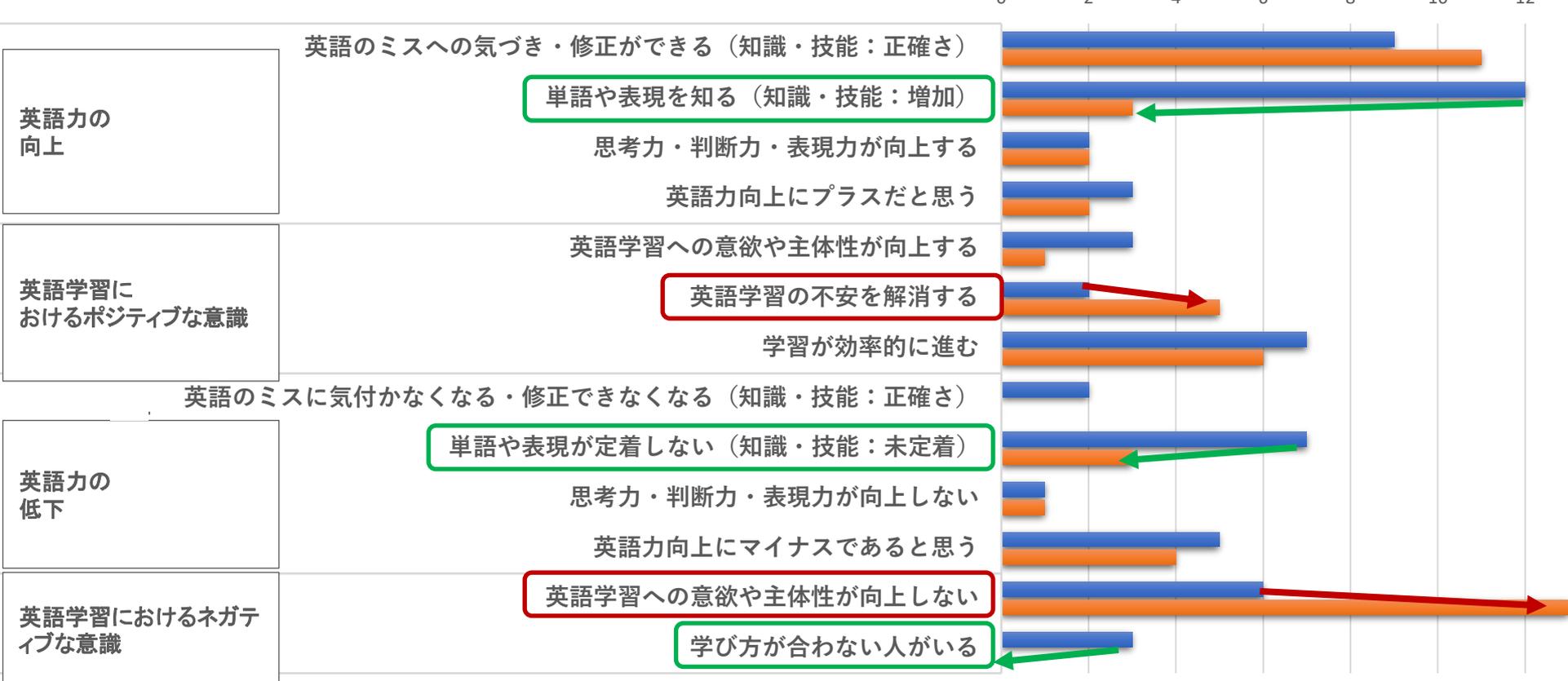
(n=21)

# 分析対象①の結果：基本情報2-1

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	プレ切片数	ポスト切片数
ツール使用の 英語力向上への影響	英語力の向上	英語のミスへの気づき・修正ができる(知識・技能:正確さ)	9	11
		単語や表現を知る(知識・技能:増加)	12	3
		思考力・判断力・表現力が向上する	2	2
		英語力向上にプラスだと思う	3	2
	英語学習における ポジティブな意識	英語学習への意欲や主体性が向上する	3	1
		英語学習の不安を解消する	2	5
		学習が効率的に進む	7	6
	英語力の低下	英語のミスに気付かなくなる・修正できなくなる (知識・技能:正確さ)	2	0
		単語や表現が定着しない(知識・技能:未定着)	7	3
		思考力・判断力・表現力が向上しない	1	1
		英語力向上にマイナスであると思う	5	4
	英語学習における ネガティブな意識	英語学習への意欲や主体性が向上しない	6	13
		学び方が合わない人がいる	3	0

# 分析対象①の結果：基本情報 2-1 グラフ

ツール使用の英語力向上への影響



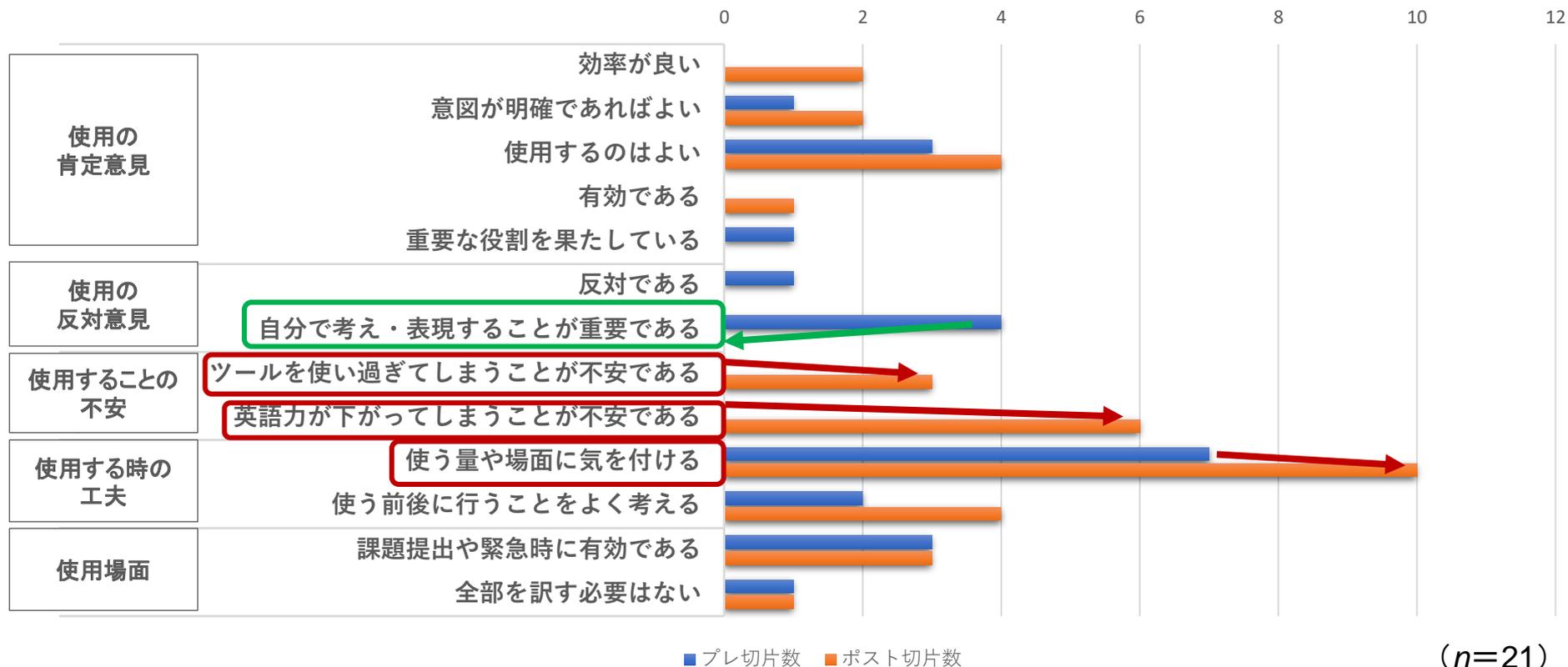
# 分析対象①の結果：基本情報2-2

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	プレ切片数	ポスト切片数
ツール使用の 意見や考え	使用の肯定意見	効率が良い	0	2
		意図が明確であればよい	1	2
		使用するのはい	3	4
		有効である	0	1
		重要な役割を果たしている	1	0
	使用の反対意見	反対である	1	0
		自分で考え・表現することが重要である	4	0
	使用することの不安	ツールを使い過ぎてしまうことが不安である	0	3
		英語力が下がってしまうことが不安である	0	6
	使用する時の工夫	使う量や場面に気を付ける	7	10
		使う前後に行うことをよく考える	2	4
	使用場面	課題提出や緊急時に有効である	3	3
		全部を訳す必要はない	1	1

(n=21)

# 分析対象①の結果：基本情報 2-2 グラフ

## ツール使用の意見や考え



(n=21)

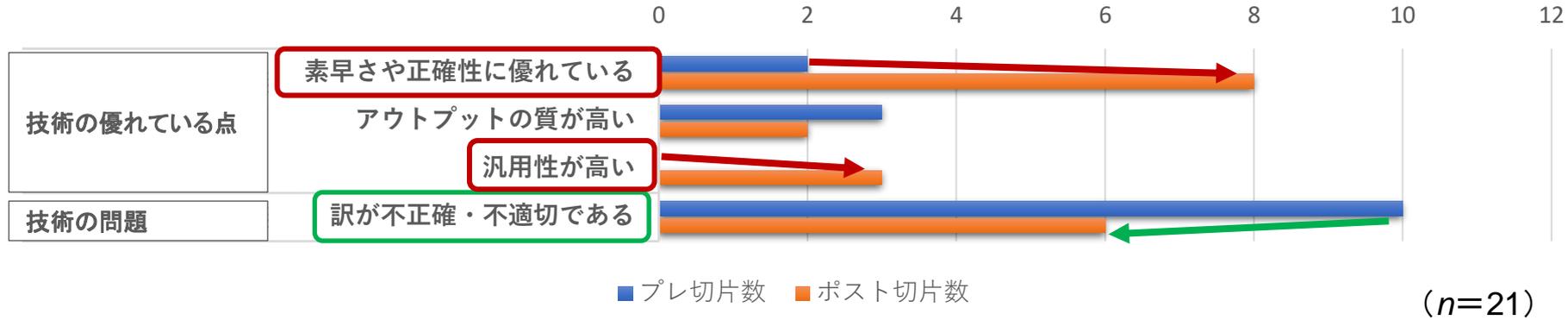
# 分析対象①の結果：基本情報2-3

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	プレ切片数	ポスト切片数
ツール技術の評価	技術の優れている点	素早さや正確性に優れている	2	8
		アウトプットの質が高い	3	2
		汎用性が高い	0	3
	技術の問題点	訳が不正確・不適切である	10	6
その他	ツール使用の指導	人の指導のほうがよい	1	0
		指導方法検討の必要性	0	1
	英語への意識	英語が苦手である	0	2
	ツール使用体験	使用した体験がある	2	4
		失敗体験がある	1	2
その他	その他	2	0	

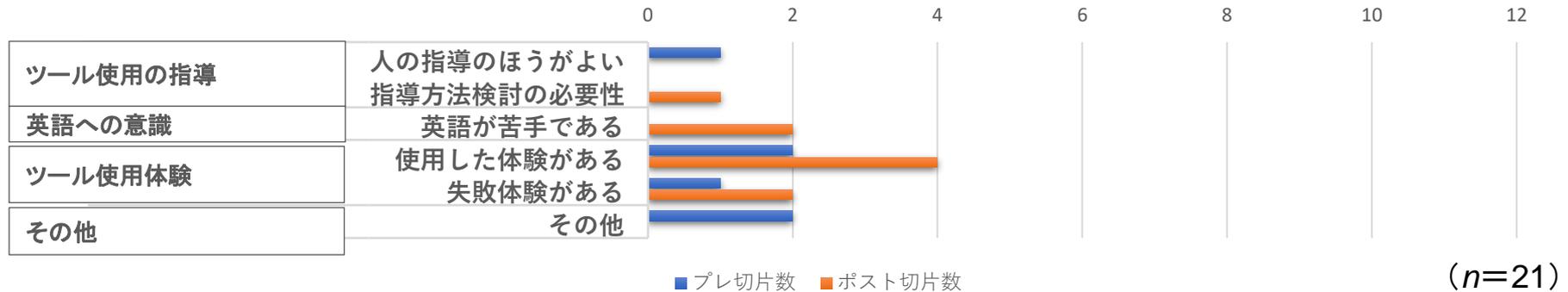
(n=21)

# 分析対象①の結果：基本情報 2-3 グラフ

## ツール技術の評価



## その他



# 分析対象①の結果: プレ・ポストで切片数が多かったもの

プレのみで 切片数が多かったコード	プレ・ポスト共通して 切片数が多かったコード	ポストのみで 切片数が多かったコード
<ul style="list-style-type: none"><li>・単語・表現を知る(12)</li><li>・単語や表現が定着しない(7)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英語学習への意欲や主体性が向上しない(13)</li><li>・英語のミスへの気づき・修正ができる(11)</li><li>・使う量や場面に気をつける(10)</li><li>・学習が効率的に進む(6)</li><li>・訳が不正確・不適切である(6)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英語力が下がってしまうことが不安である(6)</li></ul>

●切片数が6以上のものを抽出、( )内は切片数をあらわす

(n=21)

# 分析対象①の結果: プレ・ポストで切片数の変化の大きいコード

プレ→ポストで切片数が増えたコード(+3以上)	プレ→ポストで切片数が減ったコード(-3以上)
<ul style="list-style-type: none"><li>・英語学習への意欲や主体性が向上しない(+7)</li><li>・英語力が下がってしまうことが不安である(+6)</li><li>・素早さや正確性に優れている(+5)</li><li>・ツールを使い過ぎてしまうことが不安である(+3)</li><li>・英語学習の不安を解消する(+3)</li><li>・使う量や場面に気を付ける(+3)</li><li>・汎用性が高い(+3)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・単語や表現を知る(-9)</li><li>・単語や表現が定着しない(-4)</li><li>・自分で考え・表現することが重要である(-4)</li><li>・訳が不正確・不適切である(-4)</li><li>・学び方があわない人がいる(-3)</li></ul> <p style="text-align: right;">(n=21)</p>

- 切片数が±3以上のものを抽出、( )内は切片数の増減をあらわす
- 黒字のコードは意見や考えを表すもの、赤字のコードは情意(不安)を表すもの

## 分析対象②

- 質問
- 分析方法
- 結果

# 分析対象②の質問と分析方法

	質問	分析方法
問1	機械翻訳や他のアプリなどを使用しながら タスクを続けたことで、 <b>自分の英語力が伸びた</b> と思う。(評定型) ①とてもそう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない	単純集計
問2	問1で①②に回答した人(伸びたと思う)にお聞きします。 英語力の <b>どのような点が伸びた</b> と思いますか。 また伸びたのはなぜだと思いますか。(自由記述型)	担当2名で テーマ分析を実施 (詳細は 分析対象①と同様)
問3	問1で①②に回答した人(伸びたと思う)にお聞きします。 機械翻訳や他のアプリなど、 <b>使い方の工夫</b> があれば具体的に 教えてください。(自由記述型)	
問4	問1で③④に回答した人( <b>伸びたと思わない</b> )にお聞きします。 <b>それはなぜ</b> ですか。(自由記述型)	

# 分析対象②の結果：自分の英語力が伸びたかの認識

## 【問1】

機械翻訳や他のアプリを使用しながらタスクを続けたことで、自分の英語力が伸びたと思う。（ポスト調査・評定型）

伸びたと思う人は全体の4割弱で、伸びたと思わない人のほうが多い

選択肢	人数	
①とてもそう思う	3	} 「伸びたと思う」 8人
②まあそう思う	5	
③あまりそう思わない	12	} 「伸びたと思わない」 13人
④まったくそう思わない	1	

(n=21)

# 分析対象②の結果：英語力が伸びたと思う点

知識・技能に関するものが多い

記述分析から出てきたコード	切片数
語彙が増えた	4
表現が多様化した	3
文法力が上がった	2
ライティング力が上がった	1
GTECスコアが伸びた	1
目的・場面・状況への意識が高まった	1

( $n=8$ )

# 分析対象②の結果：英語力が伸びたと思う理由

繰り返し修正する、自分で考えてリライトする、ツールを一部だけ使用する

記述分析から出てきたコード	切片数
間違いの訂正を繰り返す	1
フィードバックからリライトする	1
一部だけ調べる	1

( $n=8$ )

# 分析対象②の結果：英語力が伸びたと思う人の工夫

## ツールの一部使用や複数ツール使用、ツールのアウトプット活用と自力でのライティング

カテゴリー	記述分析から出てきたコード	切片数
翻訳ツールの一部使用	機械翻訳は参考にする程度に使う	1
	翻訳を全部鵜呑みにしない * *	1
複数ツールの併用	他ツールを併用する	1
	翻訳と添削機能を併用する * *	1
ツールのアウトプットの活用	英語→日本語翻訳で確かめる *	1
	自作と翻訳を比較する	1
	新しく知った表現を覚える * *	1
英文の自力作成	自力で英文を作成する * / * *	2
	自分の英語で書く * *	1
	書けそうなレベルにリライトする * *	1
使用したアプリ	辞書アプリで単語を調べる	1

\* \* GTECライティングスコアが上昇した学生の記述

\* GTECライティングの高スコアを維持した学生の記述

(n = 8)

# 分析対象②の結果：英語力が伸びたと思わない理由

自力で書いていないことへの課題認識、自分でもっと学習したい思い、ツール依存

カテゴリー	記述分析から出てきたコード	切片数
自力で書いていないことへの課題認識	自分で考えていない	1
	自分で書いたほうが伝えたい気持ちが高まる*	1
	英語は使わないと伸びない	1
自分で学習したい思い	時間を十分にかけて取り組みたい	1
	リライトしたい	1
	自分の学習で伸びた	1
ツールへの依存	頼ってしまう	3
	簡単に調べられてしまう	1
	自分が間違っているかもわからない	1
	自分で考えないようになってきた*	1

\* \* GTECライティングスコアが上昇した学生の記述

(n = 13)

\* GTECライティングの高スコアを維持した学生の記述

- 考察
- 教育的示唆
- 課題
  
- 引用・参考文献

# 考察1: 研究課題への回答1

## 研究課題

「大学生が英語ライティング学習においてデジタルツールを使用した結果、ツール使用に関する意識、英語学習行動や意欲はどのように変化したか」

ツール使用前後において共通して認識されていたこと

### ●英語学習への利点

ミスへの気づき・修正、学習が効率的に進むこと

### ●英語学習における課題

意欲や主体性が向上しないこと、ツール技術の問題(訳が不正確・不適切)

### ●使い方(量や場面)に注意すること

# 考察2: 研究課題への回答2

## 研究課題

「大学生が英語ライティング学習においてデジタルツールを使用した結果、ツール使用に関する意識、英語学習行動や意欲はどのように変化したか」

## ツール使用後に強く認識されたこと

### ● 英語学習への利点

学習不安軽減、ツール技術の優れた点（素早さや正確さに優れていること）

### ● 英語学習における課題

英語力が向上しないことやツールの使いすぎなどへの不安

# 考察3: 英語力の伸びの実感の違いによる意識や考え

## ● 英語力が伸びたと思う人

ライティングアウトプット自体やライティング力の向上という  
目的意識を持って、自力で書くことを前提に、  
ツールやそのアウトプットを意図的に活用しようとしている

## ● 英語力が伸びたと思わない人

自力で書いていないことやツールに依存してしまうことの懸念を示すとともに  
自力で書くことやリライトなどの学習をもっと行いたいという意欲も示した

# 教育的示唆1

## 機械翻訳や添削ツールの使用は

- 英語学習の不安軽減、英語学習における気づきや効率を高める可能性がある
- ツールの使用方法(内容、場面、量・頻度)が不適切であると、英語学習意欲や主体性を低下させたり、依存度が高まることや、英語力が向上しないことへの懸念を持たせる恐れがある

「諸刃の剣」的な側面があることを認識をすべき(南部, 2023)

# 教育的示唆2

英語学習において機械翻訳や添削ツールを  
目的や意図を持ってうまく活用すると、自分の書いた英語から学ぶことで、  
ライティングアウトプットの質を向上させる可能性がある

## 英語力が伸びたと思う学生の機械翻訳や添削ツール使用における工夫点まとめ

- 翻訳は一部を使用
- 翻訳と添削を併用
- ツールフィードバックから、自力で書いたものを書けそうな英語にリライトする
  - ー自力でライティングしたものと翻訳を比較
  - ーリライトしたものを英→日翻訳で、意図が通じる英語になっているか確認

機械翻訳から得た英語を自分のものにすることを期待(小田, 2023)

# 教育的示唆3

英語学習において機械翻訳や添削ツールを活用する場合、

- 効果的な使用方法(使用方法や効果的な場面、量や頻度)を  
授業設計(指導手順)の中にある程度落とし込む
  - 活動の流れやツール使用のガイダンス、授業中の声かけ、  
ピアフィードバックを通して、学習者一人一人がツールの効果的な使い方や  
注意すべきことを自分で考えられるよう支援する
- 英語学習基礎段階の言語使用者(CEFR・Aレベル)には、  
効果的なツール活用例や使い方や使いすぎの問題点の全体共有を行うなどの配慮が必要

# 課題・限界

## 1. 違う文脈での実践事例の積み重ね

本事例研究で得られた示唆をもとに介入指導を行い、事例をより積み重ね、デジタルツールを活用したよりよい英語学習・指導の方法を探る

## 2. スコアを伸ばした学生・高いスコアを維持した学生の認識の把握・分析

GTECスコアを大きく伸ばした、または高いスコアを維持した学生の特徴的な実態や変化をさらに明らかにする

## 3. インタビュー調査での、より深く詳細な学生の認識の把握・分析

アンケート調査で明らかになることは限定的であるため  
インタビュー調査で、さらに深く詳細に学生の認識に迫る

# 参考文献

- Braun, V., & Clarke, V. (2006). Using thematic analysis in psychology. *Qualitative Research in Psychology*, 3(2), 77–101.
- Clifford, J., Merschel, L., & Munné, J. (2013). Surveying the landscape: What is the role of machine translation in language learning? *@tic. revista d'innovació educativa*, 10, 108–121.  
<https://doi.org/10.7203/attic.10.2228>
- Lee, S. M. (2020). The impact of using machine translation on EFL students' writing. *Computer Assisted Language Learning*, 33(3), 157–175. <https://doi.org/10.1080/09588221.2018.1553186>
- 森和憲, ジョンストン・ロバート, 佐竹直喜(2016). 「機械翻訳を利用した英文ライティング指導についてー高専における一事例ー」. 『四国英語教育学会紀要』第36号, 75–84.
- 南部匡彦 (2023). 学習者の機械翻訳利用の状況. 山田優 (監修) ・小田登志子 (編著) 『英語教育と機械翻訳ー新時代の考え方と実践ー』 (pp.81–92) 金星堂.
- 小田登志子 (2023). 機械翻訳の使用ルールー身の丈に合った英語を選ぶー. 山田優 (監修) ・小田登志子 (編著) 『英語教育と機械翻訳ー新時代の考え方と実践ー』 (pp.119–143) 金星堂.
- Tsai, S. C. (2022). Chinese students' perceptions of using Google Translate as a translingual CALL tool in EFL writing. *Computer Assisted Language Learning*, 35(5-6), 1250–1272.  
<https://doi.org/10.1080/09588221.2020.1799412>
- Xu, J. (2022). Proficiency and the use of machine translation: A case study of four Japanese learners. *L2 Journal*, 14(1), 77–104. <https://doi.org/10.5070/L214151328>